〈研究成果の紹介〉

高齢新規就農者のためのバリアフリーイチゴ高設栽培技術

農業研究部園芸研究課

1．成果の内容

農業者の高齢化が進み後継者不足が深刻化していますが、農業の維持のためには新たに農業後継者や他産業からの新規就農者等を増やすことが重要です。また退職後に就労を希望する高齢者が多くいるにもかかわらず、就労の場は極めて限られています。そこで、後継者を求めている農業分野と職を求めている高齢者を結びつけ、高齢者の新規就農を支援するために、座って作業できるバリアフリーイチゴ高設栽培技術を開発しましたので紹介します。

（1）バリアフリー栽培技術の開発

バリアフリー栽培では、間口5.4mのハウスの場合、片端ベンチをハウス側面より20cm離して設置し、各通路幅1mに3本のベンチを設置することにより（図1）、通路を広げ、慣行と同数の株数を栽培でき、慣行と同等の収量が得られます。また、給液管理はマニュアルに従って、バリアフリー給液装置の5段階のボタンを選択するだけで、生育ステージに適した給液管理ができます。

（2）施設内作業のための移動椅子及び台車の開発

作業は台車に取り付けた椅子に座って地面を蹴って移動しながら行います（図1，2）。作業台車は、アルミ製のH型フレームの中央に椅子を配置し、レールの有無にかかわらず使用できる構造です。椅子は、作業位置、身長差にあわせて座面の高さが23cmの範囲で調整でき、ベンチとの距離を調整するため前後方向にも9cmスライド可能です。椅子は、中心軸の開放と締め付けにより、回転、固定が選択できます。

2．技術の適用効果と範囲

今後の発展方向として、①高齢者による退職後の仕事②園芸福祉活動③農業公園における青空デイサービス④福祉施設における園芸活動⑤メディカルタウン事業等への普及等が期待されています。

また、平成18年度から厚生労働省が進めている介護予防事業にもバリアフリー農作業システムは有効な手段と考えられ、農業以外の分野への活用も期待されています。

3．普及上の留意点

バリアフリー給液管理マニュアル及びバリアフリーイチゴ栽培マニュアルを作成しましたので、実際に導入される方には提供することが出来ます。（田中一久）

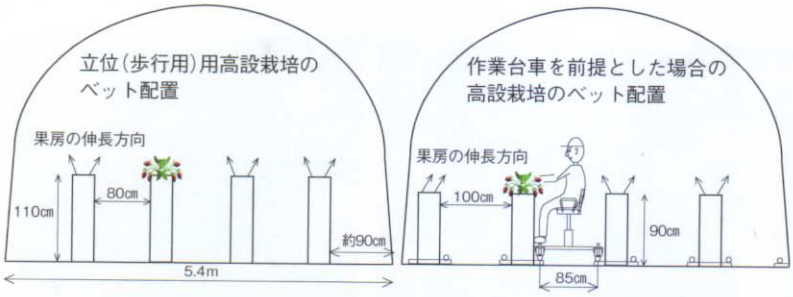

図1　バリアフリーイチゴ高設栽培のベンチの配置

図2　バリアフリーイチゴ高設栽培